

第90回「萩句会報告」 (順不同)

日時 2016年12月12日(月) 14時～17時

兼題「セーター」

- 川井素山 ○気散じに冬の灯拾ふ銀座かな
塩鮭を育む風の抜ける土間
セーターの芝払ひ合ふ背の日かな
暮早し仕込みを急ぐ屋台かな
- 保井寶正 ○日短や茶器をおさめる真田紐
断捨離に惜しむ手編みのセーターも
遺言を三たび手直す年の暮れ
領土とは議論ほつれて蜜柑むく
- 後藤克彦 ○^{くろずみ}黝し底に葉積もる冬の池
風邪の身にバス停までのひとり旅
セーターの色選ぶ妻澄まし顔
老いるごと少なくなりし忘年会
- 佐久間喬 ○五重塔影絵となせり枯れすすき
セーターや赤か黒かと旅仕度
山霧や芸者の句碑濡れてをり
初雪のテレビ中継転ぶ人
- 丸山酔宵子 ○散り果てて銀杏大樹が空を刺す
けあらしの舞ふ江の島に寄する波
セーターの破れ繕ふ母夜なべ
銀杏且つ散る参道は黄金なり
- 菊地崇之 ○襟足を輝めかせたる冬日かな
日短か思ひは^{めぐ}回り^{おの}自が末
十二月あつという間に過ぎ行かん
セーターの暖められし^{うた}詩の^{ねた}種

- 吉田啓悟 ○セーターやうしろを鳥の立てし波
山眠る古稀清貧と足るを知る
休刊日二度寝楽しむ小春かな
櫛紅葉狙ひ定めて 蹲^{つくば} ひへ
- 青木英林 ○短日や尾灯繋ぎの湘南路
セーターに微かに匂ふナフタリン
空風を通すシャッター通りなる
子供会へつぴり腰で餅を搗く
- 牧野里山 ○青空や疎水に沈む紅葉かな
津軽路を地吹雪走り人もなし
山径は落葉つもりて静かなり
この季節セーター纏い街歩き
- 佐久間たか子 ○尾白鷺胸反らし合ひ 番^{つがい}なる
冬空につつまれ雄々し富士の峰
ペアセーター肩寄せ笑ふのうのうと
黄昏^{たそがれ} て枯山水の冬木立
- 山本草風 ○屁ふりむし哲人の顔壁を這ふ
虫食ひのセーターそつとしまいこむ
冬戯れや一人居の闇酒二合
冬囲い少しの間の自己主張
- 金森純女 ○セーターを編んでいるうち別れたる
ももんがのふわりと消えて深き闇
日向ぼこ父は雀に話しかけ
- 佐伯兵庫 ○賀状書く浮かぶ笑顔の若きママ
寄鍋に冷たい妻をぐちる友
クリスマスツリーおしゃれの孫を撮るスマホ
古いセーター父の面影つつみこむ
- 渡辺鯨波 ○セーターに愀気収めて街にでる
冬ざれや手にとつてみる寮歌集
じじばばの揃いのセーター参観日
極月の現代語訳古事記かな

澁谷瑠璃 ○時代さへ生まれあやまつ狂い花
夢なんて持たぬふりして毛糸編む
ボロ布で絵具を拭ふ聖夜かな
ちくちくと胸刺すセーター誰が編んだ

石川智子 ○ひととせを拍手で送る第九かな
セーターに頬を埋めて白い息
おはやうと笑顔の朝に息白し
駅の朝キリリ北風背すじ伸び

次回「萩句会」

日時 2017年1月9日(月)14時～17時

場所 下目黒住区センター第三会議室

兼題 『松取れて』または『七草』一句 当季雑詠三句 計四句